

正統的ぶっちぎりへの道

1. ぶっちぎりということは、普通ではないものを手に入れること。

普通の人にとっては予測もつかないこと、つまり普通の人が普通に考えたときにぶつかる普通の限界をはるかに超えたことを行うことで、普通ではないものを手に入れること。

2. ぶっちぎりということは、「妥協」とは対極に位置するもの。

「妥協」とは、効率性や利便性、世間体といったものと引き換えに、本質的なものを手放す行為。「妥協」は、間違った現実認識から生まれるもの。ゆえに、「妥協」から「成功」が生まれることはない。現実を正しく理解出来れば、「妥協」という行為は消える。

3. ぶっちぎりということは、いかなる状況においてもベストを尽くすことであり、同時に、周りの人に対してもベストを求めること。

ぶっちぎりということは、「切り札」を出し惜しみをしないということ。トランプゲームの場合、普通の人には、一旦手元に「エース」が配られると、使うならベストのタイミングでと考える。ぶっちぎりということは、出し惜しみせず、出し惜しみさせてもならない。

4. ぶっちぎりということは、求められる以上のことを行うこと。

普通の人には自分が本当に必要としていることを求めようとはしない。ゆえに、それを手に入れることが出来ない。ぶっちぎりということは、普通の人たちが求める以上のものを人に求める。ゆえに相手はその求めに衝撃を受け、自分で出来るだろうと思っていた限界を超えて行動に向かう。

5. ぶっちぎりということは、可能性を信じて行動すること。

ぶっちぎりということは、失敗したらどうしようなどと心配せずに、夢の実現を信じて行動すること。このことが成功の確率を飛躍的に高め、可能性を現実に取り寄せる。ぶっちぎりということは、自分の世界を変える可能性があることにあらゆる関心と資源を注ぎ込むこと。そうすることで、起こりそうもないことが起こるのだ。

6. ぶっちぎりということは、「普通」の人と同じでないという単純なことではない。

常識的なことがどうしてそうなったかを理解しようと常識の裏側を眺めること。一度、その常識の背景を理解すると、普通の人々の考える常識というものがどういうものなのかは、全く気にすることもなく、ひたすら自分の求める結果に向かって動き出すことだ。「常識的」というものがなぜ「常識的」なのか今一度考えてみよ。「常識的」が効果的だったためではない。

7. ぶっちぎりということは、何をなすべきか、答えを既に知っているという観点に立つことだ。

次に何をすべきかが分かっていたなら、それを実行に移すことは簡単だ。もはや、カリスマや評論家などは必要ない。必要なことは行動だ。

8. ぶっちぎりということは、例えどんな考えであろうとも、即座に否定しないということだ。

常識的な考えは、沈黙の検閲者であり、道から外れた考えを修正し、否定する。ぶっちぎりということは、**どんな考えであれ、一旦思いついた考えは、しっかり受け止め、最善の結論に至るまで考え抜くことだ。**なぜなら、最も画期的なアイデアは思いこうとして思いつくものではなく、自然発生的に不意に脳裏に浮かんでくるものだからだ。常識的に判断しようとする、大抵はそれらのアイデアを殺してしまう。

9. ぶっちぎりということは、起こるかもという希望的観測の上に、己のビジネスを組み立てることではない。

ぶっちぎりであれば、今この瞬間に起こりそうなことは、既にあなたのビジネス活動に組み込まれていることに気付く。しかし、それは同時に競争相手の活動の中にも組み込まれていることに気付くことでもある。ぶっちぎりということはいつでもどこでも自分の周りに注意を払い、**起こりそうなことではなく、どうしても実現したいことを見つけることだ。**

10. ぶっちぎりということは、周りの人に最善を期待すること。

彼らの成功を期待しあてにしていることを相手に知らせ、それを基に計画し予算に入れることだ。最善を期待することで、実際に最善を手に入れる可能性が高くなる。計画はどんなことであれ、最善の結果からスタートし、それを確実なものにするにはどうすればいいか、具体的な形に落とし込むこと。当然だが、最悪のことにフォーカスすれば、最悪の結果への近道が出来上がる。

11. ぶっちぎりということは、残された場所は前進しかないと思うまで、自分を窮地に追い込むこと。

孫子の兵法によると、追い詰められた敵ほど危険なものはない。

こういう敵は、他に逃げ場がないので、**必死に戦おうとするからだ。この戦略を自分に用いよ。**

12. ぶっちぎりということは、誰かが「こうすべきだ」と言ったからという理由で何かをすることではない。

「すべき」という考えは常に現状の枠内での考えでしかない。ぶっちぎりということは「すべき」や「すべきでない」という会話になった時に「何故私がそうすべきなのか？」と問い直すこと。「すべき」は平凡への道。**「何故私がそうすべきなのか？」は王への道に繋がる。**

13. ぶっちぎりということは、現実を幻想や嘘の上に築かないということ。

多くの「常識的」な戦略は、誤った前提や不完全な仮定の上に組み立てられている。あなたの戦略がそうであれば、必然的にあなたの判断は間違ふことになる。

自分の立っている場所が正確に分らなければ、目標地点までの正しい進路を描くことは出来ない。

14. ぶっちぎりということは、計画を出口から立てるということ。

ほとんどのビジネスは、今現在の考えや機会に基づいて組み立てられるが、どのような結末を迎えるかについては全くと言っていいほど考慮されていない。その結果、どういう結末を迎えるかについてはリーダーにしてみれば博打でしかない。

今すぐに、あなたの出口戦略を決めよ。次に、それに向かって確実な進路を描け。

15. ぶっちぎりということは、自分の行動と結果について完全な責任を持つということ。

自由は「責任」から生まれる。常識的な考えでは、結果に対して、誰かや何か、外的にその責めるべき相手を探そうとする。ぶっちぎりということは、自分の範囲内の出来事に関しては、奇跡であろうが天変地異であろうが、全てを自分のせいにする。

そして、それらの要因を全て自分のものとせよ。そうすることで、それらの要因に対して支配権を持ち、自由を得る唯一が得られるのだ。ぶっちぎりということは、社会的慣習に背くことには全く責任を持たないが、自分の周りの結果には全て完全な責任を負うということ。

16. ぶっちぎりということは、もっとお金を使うこと。

逆に、常識的なお金の使い方をしてるといつか破綻するだろう。あらゆる聖書、経典に書き残されているように何事にもタイミングがある。そして、儉約と質素にもタイミングがあるのだ。ギリギリまで切り詰めれば、ビジネスの成長を遅れさせ、失敗を招く原因となる。

あなたが成長を望むなら、もっとお金を使うこと。

17. ぶっちぎりということは、無駄なことをすること。

さもないと、何も創り出すことは出来ない。初めからうまく機能する発明やアイデアなどあり得ない。もし、無駄や失敗を避けようとするならば、それはおそらく実験や改革を避けることに繋がる。偉大なことを成し遂げようと思うならば、失敗しなければならない。今、すぐ行動に取り掛かれ、そして、定期的にゴミ箱を空にすればいい。

18. ぶっちぎりということは、保守的なアプローチを選択しないということ。

保守的なアプローチからは、保守的な結果しか生まれない。過去の成功を繰り返し、伝統を守り、全てを同じように維持するとしても、過去と同じような結果を生み出すのが精一杯なのだ。問題は、新しい未来においては（現在の我々の世界でも同じことなのだが）そのような結果は、もはやかつてのような良い結果をもたらしてはくれないということだ。

ぶっちぎりな成功を得るためには、未来へのアプローチもぶっちぎりなものでなければならない。

19. ぶっちぎりということは、しっかり休むということ。

自分のパワー・メーターがゼロを指すまで働くのは、愚か者のすることだ。金曜日は休み、タンクにエネルギーを充填せよ。仕事も家族も忘れる平日の休日を意図的に毎週作れということ。木曜日の夕方までに、その週の予定を完了させれば、金曜日には頭の中をオフモードに出来る

20. ぶっちぎりということは、何もかも正しくやろうとは思わないこと。

そのために、何事にもバージョン2.0がある。完璧を期そうとすれば、進歩が阻害されてしまう。新しいアイデアは、最後は生身の人間に対しての実施検証が必要。もし、最初から全てを完璧にしようとするれば、そこに至るまでに莫大な時間を要する。もしかしたら、その期待する結果に至らないかもしれない。先ずは、機能性と作業性を考え、市場のカオス（混沌）に置いて実施検証せよ。その他の問題は、後日修正すればよい。

21. ぶっちぎりということは、今やろうとすることに恐れを抱くこと。

全ての偉大なベンチャーには必ずリスクが必然的に含まれておりそこには成功と同様に失敗の可能性もあるということ。もしあなたが、今やろうとしていることに全く恐れを抱いていないとすれば、あなたは恐らく偉大と呼ばれるようなこと・大きな価値あることをやろうとしていないのだろう。ぶっちぎりな人たちは、恐れを抱く。

22. ぶっちぎりということは規則を破ることもあるが、新しい規則を作るということではない。

昔の規則を壊し、それを新たな規則で置き換えようとしてはならない。「新たな規則」が単なる「規則」になった時、それらの「規則」は、以前の規則と同様、確実にあなたを縛ることになるだろう。どうしても「新たな規則」を作る必要がある場合、道しるべやガイドライン、目安を作ればよい。「規則」を増やすな！